

16th July

広田親子ガーデントーク

# 広田親子ガーデントーク

## 「こんなに あるある! 身近なハーブ」

日時 / 7月16日(日) 13:00~14:00

会場 / 香りゃんせ公園



広田親子 ひろた せいこ

学習院女子短期大学国文科卒業。  
ハーブ文化研究所主宰。  
NHKテレビ「趣味の園芸」の講師をはじめ、新聞・雑誌で活躍中。  
長年にわたりハーブの研究を続け今日では植物学としての品種の同定・栽培からハーブと生活の提案まで幅広く活動範囲を広げている。1988年南仏のビュイ・レ・パロニーでハーブへの貢献が認められ「菩提樹の騎士号」を受賞。1994年米国ハーブ・ソサエティより内外での活躍が評価され「功績賞」を贈られた。  
現在、英国王立園芸協会日本支部理事、英国ハーブソサエティ永久会員、米国ハーブソサエティ終身名誉会員。

### 主な著書

- 「ハーブ・バラエティー」 朝日新聞社
- 「アメリカハーブ紀行」 朝日新聞社
- 「広田親子のハーブ・アイテム33」 NHK出版
- 「よくわかる栽培12ヶ月 ラベンダー」 NHK出版
- 「広田親子のキッチンガーデン」 NHK出版
- 「ハーブスタディー」 NHK出版
- 「ハーブが香るコテージガーデンの食卓から」 文化出版局
- 「イギリス花の庭」 文化出版局
- 「南仏プロバンスのハーブたち」 文化出版局
- 「ハーブの庭から」 講談社
- 「ハーブと暮らし」 講談社
- 「広田親子のNEWハーブブック」 山と溪谷社

Herb Summit 2006

広田親子 スペシャルメッセージ

広田親子 スペシャルメッセージ

# 「ハーブが香る暮らし」を夢みて





### 皆さんはどんな夢をお持ちでしょうか。

「まかぬ種子は生えぬ」といいますが、私はいつも心の中に夢の種子をまいてきました。

植物の生長サイクルが数タイプあるように、夢にもいくつかのタイプがあります。例えばカモミールやポリジのような1年草は、発芽も早く栽培も容易で、短期間に開花結実をします。夢として考えた場合は、少し努力をすれば嬉しい結果が早く出るような身近な内容です。

反対に、オリーブや月桂樹のような樹木は、種子が堅いせいか発芽までに時間がかかり、途中で腐ってしまうこともあります。けれども、ひとたび根を下ろすと大きな樹に成長し、人々に喜びを与えながら長寿を全うする例が多いようです。同様に大きな夢は実現までにはかなり時間がかかり、難しいことも多くありますが、望みが叶った時の喜びは例えようもありません。

### 私には幼い頃から抱いていた夢がありました。

それは「ハーブの香る家に住む優しいお母さん」になることでした。

この夢を叶えるために長い長い実践の日々があり、気がついたら結果として

「ハーブ研究家」の肩書きがついていたのです。

家庭という字は、家と庭からできています。

小学生の頃から、私はいつか結婚したら「明るくて、暖かくて、小さな家に住みたい」と思っていました。生家が福島市の古い禅寺なので、おそらく「暗くて、寒くて、大きな家」に育ったその反動なのでしょう。そして、母がしていたように庭に植えた香りのよい草花を家中に飾り、香りのよい野菜を料理に使って、「優しいお母さん」になりたいという夢を育てていました。

寺と言えば古風な環境のようですが、両親とも教職にあり、戦争前から通信販売で父は樹木を、母は西洋の草花や野菜の種子を取り寄せていたモダンな人たちでした。戦時中とはいえ、植物栽培の手ほどきを両親から受けることができたのは、何とありがたかったことでしょう。これが私の人生にとって、よく効く肥料となりました。

### ハーブに興味を持ち始めたのは中学1年生の頃です。

外国小説に登場する香り草を知りたいと思ったからです。例えば、「赤毛のアン」のラベンダー、や「ハムレット」のローズマリー、「クリスマスキャロル」のサルビア、「ヘンリー2世」のローマンカモミールなど、見たことも聞いたこともない植物がたくさんあるのに、驚いてしまいました。



父が愛用していた村越三千男の植物図鑑で調べても、香りや味までは分かりません。調べるうちに、こうした植物のグループはHerbとよばれ、古くから衣、食、住などの暮らしに役立つ草木として利用されています。実物をぜひ育ててみたいと決心しました。

学生時代の私の夢は、ジャーナリストになることでした。1962年、講談社の入社試験に合格した私は「若い女性」という月刊誌の編集者に。早速、ハーブのリサーチをしました。あの当時は料理の有名な先生でもフレッシュハーブを使っていませんでした。

1964年の東京オリンピックを境に、日本は変わったとよくいわれます。しかし、ハーブに関してはまだまだ。ハーブ研究に熱心なアメリカはベトナム戦争の最中で、ヒッピー達が古きよきものを見直す「Back to Nature」のウエーブを起こし、ハーブ愛好者たちは「ハーブのルネッサンス」と称して、この頃からハーブの価値を再認識し始めています。

### 「ハーブが香る家」

結婚し3人の息子の母となった私は、いよいよ昔から育んできた「ハーブが香る家」という夢の実現に取り掛かりました。とはいってもの当時はハーブの種子などどこにも売っておらず、アメリカのペ

ンフレンドや海外へ出張する夫に頼み込んだり、お土産のハーブティーのバックをほぐして種子を見つけ、発芽させたこともあり。信じられないかもしれませんが、30年前はハーブといっても通じない時代だったのです。

### 広い北海道で。

ところで、北海道では広い敷地と家をお持ちの方が多く、何と羨ましいことでしょう。

東京近郊は地価がひじょうに高く、庭付きの家はほとんど絶望的な値段です。けれども、あの大きな夢を諦めることは出来ません。1971年、夫と二人で探し回り、ガスなし、電気なし、水道なしの崖地をとうとう100坪手に入れること

が出来ました。

3年後、好運にも隣接する65坪を購入。その後、借金返済をしながら土地を造成し、ガス、電気、水道を引いて念願の家が建ったのは、17年後の1988年のことでした。

その間ただ待っていたわけではありません。現在も畑を借りていますが、家が完成したらいつでも移植できるように、近くの市民農園を借りて、英米の参考書でハーブ栽培と利用の独習を続け、写真と文で記録をしていました。これがハーブの本作りの基礎となったのはいうまでもありません。また、入賞者への褒美がアメリカ研修という懸賞小論文に挑戦し、2回の渡米を経験できたのも、いつかきつと現地でハーブのある暮らし



を経験してみたいという、以前にまいておいた夢の種子が開花したのでしょうか。

人生とは不思議なもの。あこがれの夢が叶い、家と庭がある「家庭」で「ハーブが香る暮らし」を始めて、すでに18年がたちました。これまで育てたハーブは1千種を超え、著書も20冊を超えました。「いつも心に夢の種子を」を座右の銘としてきたせいか、ハーブのご縁で知り合ったハーブ友達は国の内外に数えきれません。

この夏は薄荷が香る北見で、どのような夢の種子が芽生え、花を開くのでしょうか。

北国の爽やかな風を思いながら。

広田 親子



ひろた せいこさん

1941年福島市生まれ。日本のハーブ研究の第一人者。テレビ出演や執筆活動のほか、高齢者や障害を持つ人も楽しめる公園づくりや、子どもを対象とした園芸指導にも取り組んでいる。ご主人は鉄道写真家の広田尚敬さん。

撮影／広田 尚敬

山と溪谷社刊  
「広田親子のNEWハーブブック」より



広田親子ガーデントーク  
「こんなにあるある! 身近なハーブ」  
16th July 2006 Herb Summit KITAMI

✓ハーブとは?

✓日本在来のハーブ  
ワサビ、ウド、ミツバ、フキ

✓春の七草  
セリ、ナズナ、ゴギョウ(ハハコグサ)、ハコベ、ホトケノザ、スズナ(カブ)、スズシロ(ダイコン)

✓秋の七草  
ハギ、スズキ、クサ、ホウライデシロ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ

✓薬味用、風味用ハーブ  
アイヌワサビ、京都ワサビ、ニンニク、ニラ、ネギ、ラッキョウ、シロネ、セリ、ショウブ、ハス、アロエ、ミョウガ、ワサ、ハ、カラシナ、トウガラシ、ショウガ、ハママ、ハママ、ゴマ、ユズ、オネギ、スダチ など

✓山や野原の薬用ハーブ  
ハッカ、ハマナス、ノイバラ、チヂミタコウジュ、カワズリ、オオバコ、セイヨウタンポポ、ヨモギ、スイム、スズナ、スベリヒユ、ヒメジョオン、オキナクサ、クマササ、ハトムギ、レンゲツ、アマチャヅル、ダンシヨウコ、ユキマ、マタタビ、キルトリイバラ、クオ、アカサ、チヨウセンゴギ、イカリソウ、カラスウリ、ベニマ、マタタビ、セイヨウキンミズヒキ、エビスタサ、スイカズラ など

植物  
パンジー、ヒヤシ、ヒトコセリ、イヌサフラン、シキミ、ルリ、チヨウセンササガキ、パンフリ、ヨウシュヤマゴボウ、フルニチシク、フルニチシク、シキタリス、フタジメソウ、ヒコロ、イトマ、クロリサ、アハンガシ、コウシ、クサノオウ、ニガヨモギ、ヒコロ、ドクダミ など

**DANGER**  
注意 有毒植物とされていない植物でも、充分な注意が必要です。  
特に薬として利用する時は専門家の指導を受け、けっして安易に用いないこと。



大会終了後、広田さんからメールが届きました。

Many many Thank's!!!  
実行委員のみなさま。

横浜は朝から雨ですが、北見のお天気はいかがでしょう。でも、ハーブサミットが大成功のうちに終了したので、もう、これからは天気を気にしなくてもよくなりましたね。

おめでとう! ありがとう! そして、おつかれさまでした。3日間にわたるサミットの充実した内容と運営には、どれほどの準備と努力がなされたことでしょう。市長さんをはじめ、皆様方の真摯な取り組み方が、参加者全員に伝わってまいりました。お陰さまで素敵な出会いがあり、ハーバルフレンドがたくさんできたことにも感謝しています。

大島大会実行委員長をはじめ、皆様方もお疲れのではありませんように。

そしてまたお目にかかれましますように。

ごきげんよう。  
広田親子

